

# U

大学



## 秋のオープンキャンパスに 1300人以上の来場者

晴天に恵まれた11月7日(日)、秋のオープンキャンパスが開催されました。来場者数は、長久手キャンパスと星が丘キャンパスをあわせて1364人という盛況ぶりでした。昨年度までは大学祭と同時に開催していましたが、今年度は別の日程で行いました。

いよいよ受験シーズンに入り、教員と話ができる最後のオープンキャンパスということもあって、試験を目前に控えた受験生が、各学科・専攻個別相談コーナーや入試個別相談コーナーに長い列を作りました。全体説明会では、公募推薦入試、自己推薦型を希望する受験生が試験のポイント

などについて真剣に聞き入っていました。各キャンパスの施設を見学するキャンパスツアーはその充実ぶりに参加者から感嘆の声があがっていました。

昨年1月、星が丘キャンパスは新しい校舎に建てかえられ、昨年9月には長久手キャンパスに「語学教育センター」が完成し、施設もますます充実しています。語学教育センターでは、インターネットを利用した学習ソフトを使って英語や中国語の模擬授業、交換留学制度や海外短期研修に関する留学相談が行われ、多くの受験生が参加しました。

# CAMPUS TOPICS

# U

大学

## 現代社会 学部・研究科の 学生グループが 論文で優秀賞受賞

愛知県企画振興部が募集した「E-高度道路交通システム」を活用した地域づくりや、未来の交通社会に関するアイデアの論文の部で、現代社会学部と大学院現代社会研究科の学生グループが優秀賞を受賞しました。

辻紘良教授のゼミ生によるグループで、大学院博士前期課程2年の

増岡孝之さんを代表に、同1年の川口理恵さん、後期課程3年の野澤成裕さん、学部4年の鈴木寛之さん、池田恵梨子さん、伊藤りささんの6人です。

受賞論文のタイトルは「高齢者・障害者のためのE-TS情報サービスの展開」で、10月23日にポルトガルセナチヤで授賞式が行われました。



辻紘良教授とゼミ生によるグループ

# U

大学

## 榎田勝利、馮富榮、 杜英起先生が 功績により表彰



榎田勝利教授

社団法人 私立大学情報教育協会  
第37回 臨時総会



馮富榮教授(右から2人目)

文化創造学部の榎田勝利教授が昨年10月30日、財団法人愛知県国際交流協会から平成16年度国際交流推進功労者として表彰されました。国際交流団体での長年にわたる指導や、関連委員会・会議のアドバイザーとして全国的な国際交流推進への功績が認め

られたものです。

「ミニマシオン」学部の馮富榮教授と杜英起教授は11月25日、社団法人私立大学情報教育協会の全国情報教育研究発表会で発表した共同研究「オリジナルの「online」中国語教育の試み」が奨励賞を受賞し、表彰されました。

# U

大学

## 韓国、オーストラリアの 大学と交流協定を締結

本学は昨年7月15日に韓国ソウルの梨花女子大学校、11月4日にオーストラリアのキャンベラ大学と学術交流協定を締結し、小林素文学長が両大学を訪問して調印を行いました。

梨花女子大学校は1886年、韓国初の女子大学として創設さ



交流協定書の交換を行う  
小林学長(左)と  
キャンベラ大学のロジャー・ディーン学長

れ、現在14学部13研究科、学生2万1000人を擁する韓国固有数の総合大学です。韓国での提携校は大邱カトリック大学、東亜大学校に続いて3校目となります。

キャンベラ大学は1967年創立のオーストラリア唯一の国立大学で、学生数約1万人、世界各国から留学生が集まる国際色豊かな総合大学です。オーストラリアではセントラルクイーンズランド大学に続いて2校目の交流校となり、本学の交流提携校はこれで18校となりました。

愛知淑徳高校とメルボルンのセントキャサリンス高校は30年近く姉妹校の関係にあり、小林学長は同校も訪問しました。



国体のフェンシング競技に出場した藪内圭さん



国体のレスリング競技に出場した藤原昂史さん



# 男子学生が 国体、オリンピック、 フォーミュラレースで活躍



アテネオリンピックに参加した久保田真広さん

昨年の第59回国民体育大会秋季大会に2人出場  
現代社会学部現代社会学科1年の藤原昂史さんが、レスリング競技フリースタイル66kg級に愛知県代表として出場しました。大学では総合格闘技部に所属。一般の総合格闘技ジムにも通って練習を積み、昨年5月の愛知県代表選考会で66kg級優勝、8月の市民スポーツ祭で準優勝を飾ったの国体出場です。結果は1回戦3分でTフォール負け。タックルが思うように決まらなかった。練習で改善して自信を付け、もう一度国体に挑戦したいですね」

「コミュニケーション学部コミュニケーション心理学科3年の藪内圭さんは三重県代表として2年連続でフェンシング競技に出場。高校生からフェンシングを始め、現在は大学で個人的に練習を重ねています。「フェンシングは油断すると大変なげがをするので、いいかげんな気持ちではできませんが、興味のある人は、一緒に同好会を作りませんか。希望者は学生課まで。アテネオリンピックにビーチバレーのトレーナーとして参加した久保田真広さん、昨年アテネオリンピック



フォーミュラ・ドリームに出場した大岩敬澄さん(上)とレース

にピトチャレイ・徳野・楠原組のコンディショニング・トレーナーとして参加しました。約4年間、選手へのトレーニング指導、鍼灸マッサージなどを続け、五輪期間中は試合に向けてのコンディショニング作りとサポートに取り組んだそうです。日本チームは17位で予選敗退。くやしい気持ちはありますが、「一生懸命やった結果なので満足しています。またチャンスがあれば大きな夢に挑みたいですね」

鈴鹿のフォーミュラ・ドリームにデビュー  
コミュニケーション学部ビジネスコミュニケーション学科2年の大岩敬澄さんが、鈴鹿サーキット国際レーシングコースで開催された2004フォーミュラ・ドリーム(FD)第7戦(昨年11月6日。決勝10位)、第8戦(同日。決勝9位)でデビュー。世界で通用するレーシングドライバを育成するSRSE(鈴鹿サーキットレーシングスクールフォーミュラ)を卒業、スカラーシップを獲得してのレース出場です。FDの間チャンピオンはF3へステップアップできるとあって今後の期待が高まります。「完走はしましたが、納得のいく結果ではなかった。次回のレースで最高の結果を出せるよう努力します」

## 3人の映画監督を迎え、 文化創造フォーラム 開催



井筒和幸監督



グ・スヨン監督

## 星が丘 キャンパス1号館が 2つの建築賞を受賞

昨年4月星が丘キャンパス1号館にオープンした大学1号館が2つの建築賞を受賞しました。

「第36回中部建築賞」は、中部圏9県内の建築の中から中部地域の社会発展に寄与し、地域と環境に根差した優れた建築作品

11月4日(水)、11日(水)、18日(水)と、星が丘キャンパスで文化創造学部主催による2004年度文化創造フォーラムが3週連続企画として開催されました。

第一回の講師には井筒和幸監督を招き、『ケロバ』上映後、本学大学院教授でもある若松孝一監督と対談していただきました。旧友のおふたりならではの貴重なエピソードなども聞かせていただき、井筒監督の意外な一面を拝見することができました。

第二回の講師にはCMクリエ

ター出身のグ・スヨン監督を招き、「偶然にも最悪な少年」を上映後、文化創造学部学生によるインタビューに答えていただきました。CM撮影と映画撮影での手法の違いなど、さまざまな質問に丁寧にお答えくださった監督の真摯な態度が印象的でした。

第三回の講師にはドキュメンタリー作品を得意とする池谷薫監督を招き、中国を舞台とした「延安の娘」を上映後、本学の馮富榮(フオンフーロン)教授、角田達朗助教と対談をしていただきました。膨大な時間を要した取材の苦労や、中国の過去と現在などについてドキュメンタリーのメタフィロソフィならではの貴重な解説をお聞きすることができました。(多元文化専攻 杉本直)



に与えられる国内有数の建築賞で、昨年12月14日、名鉄コングラントホテルで表彰式が行われました(写真)。

「第12回愛知まちなみ建築賞」は、良好な地域環境の形成に貢献している愛知県内の建築物に与えられる賞で、2月1日、愛知芸術文化センターで表彰式が行われます。

今年度のW受賞は、学園の教育の基盤ともいえるキャンパス整備計画が社会的にも高く評価されたことの証明だといえるでしょう。



## ジェンダー・女性学研究所 主催講演

本学エンター・女性学研究所主催による講演会が12月2日(木)、星が丘キャンパスで開催されました。講師は京都大学大学院医学研究科の日高庸晴先生で、演題は「セクシュアリティの多様性について考える」でした。

講演では、ゲイ・バイセクシュアル

男性(同性愛・両性愛者の男性)の、偏見や差別を受けた経験や「精神的健康の実態」について先生の豊富な実証研究のデータに基づいて分かりやすく解説されました。本邦においてゲイ・バイセクシュアル男性の精神的健康の実態は日高先生が一連の行動疫学調査を行うまで明らかになされておらず、その意味で今回講演された内容は学術的・社会的観点から考えて、非常に貴重な有意義深いものであると考えられます。

セクシュアリティの多様性について理解を深めることは本学の理念でもある、違いを共に生きる「視点を身につける重要な側面も持つており、聴衆は熱心に先生の講演を拝聴しておりました。(福祉貢献学科 西和久)



東京大学 西垣通教授

冒頭の講演では、講師として東京大学から情報文化論の第一人者である西垣通教授をお招きし、「情報化時代に、生きる」とは「何をテーマに話していただきましたか、情報とは外にあるものではなく、

コミュニケーション学部言語コミュニケーション学科では、2000年度の創設以来、毎年研究大会を開いています。今回(12月4日土)は約160名が参加し、学部生や院生、それに卒業生による9件の研究発表と海外研修報告がありました。

## 言語コミュニケーション学会 第5回研究大会

自己との関係性の中でとらえらるべきものであるという指摘からアメリカ・スラムも我々の内なるものとしてとらえてこそ問題解決の糸口が見つかるという主張まで、現代のさまざまな事象をユークリナ視点から解き明かす知的刺激に溢れた講演でした。(言語コミュニケーション学科 松本青也)

## 文学部主催で 3講演会

図書館情報学科企画「図書館について学ぶ」シリーズ講演会第2回(11月24日(水)、長久手キャンパス) 講師は国立国会図書館総務部企画・協力課の徳原直子氏で、「国立国会図書館の最新事情」をテーマに、国立国会図書館の本館リユースや電子図書館中期計画

## 講演会 報告 LECTURE

昨年末、大学の各学部やセンターの主催で行われた講演会をご紹介します。愛知淑徳大学では今後もさまざまな講演会を開催する予定です。



国立国会図書館総務部 企画・協力課 徳原直子氏



の策定によるデジタルアーカイブ構築について最新の状況をお話いただきました。学部生だけでなく大学院生、図書館員の方々の参加によって盛大な講演会となりました。

「図書館について学ぶ」シリーズは今年1月11日に第3回、日本の国立大学図書館における電子ジャーナルの導入と利用についても開催。また大学院図書館情報学専攻では今年度、「メタデータについて学ぶ」シリーズとして筑波大学の杉本重雄先生、メディア教育開発センターの三輪真木子先生を講師に研究会を開きました。(図書館情報学科 菅野育子)

英文学科企画平成16年度第5回文学部講演会(11月25日(木)、長久手キャンパス)

講師は筑波大学教授の今泉容子先生で、演題は「赤と白のイメージ ウィリアム・ブレイクの複合芸

術にみるセクシュアリティについて」でした。先生は、イェール大学でPh.D.を取られたブレイクの専門家として、さらに映画研究者として単著共著合わせて10冊近く出版しておられます。

今回の講演では、詩人・版画家・画家にして独特の人間観を持つブレイクの諸作品に見られる赤い血と白い乳のイメージに焦点を絞り、男女の誕生と因果関係、両者の葛藤、さらに力関係の逆転を多数の興味深い本文と絵画を例にしてお話になりました。聴衆はブレイクの男女観とその表現及び今日的なアプローチであるセクシュアリティによる解釈の実践から大いに学ぶところとなりました。(英文学科 山田幹郎)



筑波大学 今泉容子教授



帝京平成大学 仲井克己講師

講師は帝京平成大学情報学部講師の仲井克己先生で、演題は「IT時代における文学研究の可能性 双方向のネットワークを利用した教育と研究」でした。

先生の研究の領域はフィールドワークを含む日本文化思想、日本語文章表現、そして情報文化という幅広いものですが、講演はそれらの成果を凝縮したデジタルコンテンツの制作過程の紹介と多彩な映像資料の公開を中心に、ITを利用したこれからの文学研究の豊かな可能性について、実践的かつ情熱的に指し示される思いでした。(国文学科 久保朝孝)

講師は帝京平成大学情報学部講師の仲井克己先生で、演題は「IT時代における文学研究の可能性 双方向のネットワークを利用した教育と研究」でした。

先生の研究の領域はフィールドワークを含む日本文化思想、日本語文章表現、そして情報文化という幅広いものですが、講演はそれらの成果を凝縮したデジタルコンテンツの制作過程の紹介と多彩な映像資料の公開を中心に、ITを利用したこれからの文学研究の豊かな可能性について、実践的かつ情熱的に指し示される思いでした。(国文学科 久保朝孝)

